

(様式第 10)

神大医総第 94 号  
平成 28 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

管理者名 神戸大学医学部附属病院長  
藤澤 正人 (印)

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
氏 名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

神戸大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 5-2 電話 (078) 382-5111
---

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 腎臓内科 3 呼吸器内科 4 消化器内科 5 神経内科 6 血液内科 7 感染症内科	
診療実績	
糖尿病内分泌内科、腫瘍・血液内科	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 小児外科 3 形成外科 4 美容外科	
診療実績 食道・胃腸外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、耳鼻いんこう頭頸部外科	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 放射線腫瘍科 2 病理診断科 3 リハビリテーション科
-------------------------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46床	0床	0床	0床	888床	934床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	544人	208人	690.2人	看 護 補 助 者	54人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	18人	18人	30.9人	理 学 療 法 士	16人	臨床検査技師	72人
薬 剤 師	76人	0人	76.0人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	1人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	11人	そ の 他	0人
助 産 師	33人	0人	33.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	848人	25人	864.0人	臨 床 工 学 士	37人	医療社会事業従事者	6人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	42人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4.0人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	255人
管 理 栄 養 士	11人	0人	11.0人	診 療 放 射 線 技 師	51人	そ の 他 の 職 員	27人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	52人	眼科専門医	11人
外科専門医	59人	耳鼻咽喉科専門医	16人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	32人
小児科専門医	23人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	12人	整形外科専門医	31人
泌尿器科専門医	20人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	19人	救急科専門医	7人
		合 計	324人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経歴

管理者名 (病院長 藤澤 正人) 任命年月日 平成26年2月1日

医療の質・安全管理部長 (平成25年10月1日) (~平成26年1月31日)  
 医療安全管理委員会委員長 (平成26年2月1日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	796.7 人	17.2 人	814.7 人
1日当たり平均外来患者数	1317.1 人	65.6 人	1382.8 人
1日当たり平均調剤数			1825.2 剤
必要医師数			166人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			455人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	653 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	36床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生體	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	55m <sup>2</sup>	病床数 5床(クラス100)		
	[移動式の場合]	台数	643.39m <sup>2</sup>	病床数 63床(クラス100以外)		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	51.24m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	58m <sup>2</sup>		(主な設備) 自動臨床化学分析装置			
細菌検査室	73m <sup>2</sup>		(主な設備) 微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置			
病理検査室	247m <sup>2</sup>		(主な設備) 刈オスカット, ウルトラミクローム, 染色装置			
病理解剖室	67m <sup>2</sup>		(主な設備) 解剖台, オートクレーブ, 写真撮影機			
研究室	430m <sup>2</sup>		(主な設備)			
講義室	1,193m <sup>2</sup>		室数	6室	収容定員	952人 (各室252,120,120,315,100,45)
図書室	2,145m <sup>2</sup>		室数	1室	蔵書数	約15万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	72.5%	逆紹介率	48.6%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	18067人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12845人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1082人	
	D: 初診の患者の数	26418人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) 計画書 (様式第8) 提出済

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況 計画書 (様式第8) 提出済

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 計画書提出済	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	11人
成長障害の遺伝子診断	2人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	4人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	0人
前眼部三次元画像解析	4人
(2)(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関)急性リンパ白血病	0人
食道アカラシア等に対する経口内視鏡的筋層切開術	25人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	1人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	2人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	12
2	筋萎縮性側索硬化症	19	57	特発性拡張型心筋症	25
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	1	60	再生不良性貧血	5
6	パーキンソン病	30	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	0	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	15
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	16	66	IgA腎症	18
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	4
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	15	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	9	69	後縦靱帯骨化症	10
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	6
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	2
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	7	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	0	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	6	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	9
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	15
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	1	84	サルコイドーシス	10
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	1
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	45
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	41
34	神経線維腫症	8	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	0
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	7
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	6	95	自己免疫性肝炎	4
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	10
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	16
43	顕微鏡的多発血管炎	16	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	1	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	1	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	1	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	48	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	38	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	11	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	10	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	7	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	3	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名			疾患名	
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイノミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治顔回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

## 4 指定難病についての診療

	疾患名			疾患名	
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	8	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	栄養サポートチーム加算
歯科外来診療環境体制加算	医療安全対策加算1
歯科診療特別対応連携加算	感染防止対策加算1
特定機能病院入院基本料 一般(7:1)	感染防止対策地域連携加算
特定機能病院入院基本料 精神(13:1)	患者サポート体制充実加算
超急性期脳卒中加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
診療録管理体制加算1	ハイリスク妊娠管理加算
医師事務作業補助体制加算1 (20:1)	ハイリスク分娩管理加算
急性期看護補助体制加算(50:1)	呼吸ケアチーム加算
看護職員夜間配置加算(12:1)配置加算2	病棟薬剤業務実施加算1
看護補助加算2(50:1)	病棟薬剤業務実施加算2
療養環境加算	データ提出加算2
重症者等療養環境特別加算1	退院支援加算2 (一般病棟入院基本料等) (旧:退院調整加算A238)
重症者等療養環境特別加算2	精神疾患診療体制加算1
無菌治療室管理加算1	精神疾患診療体制加算2
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料4
緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料 小児加算
精神科応急入院施設管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料1
精神病棟入院時医学管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料2
精神科身体合併症管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料

精神科リエゾンチーム加算	小児入院医療管理料2
重度アルコール依存症入院医療管理加算	小児入院医療管理料 プレイルーム加算
摂食障害入院医療管理加算	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科治療総合医療管理料(I)(II)	医療保護入院等診療料
医療機器安全管理料(歯科)	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
歯科口腔リハビリテーション料2	エタノールの局所注入 甲状腺に対するもの
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1(歯科)	エタノールの局所注入 副甲状腺に対するもの
加圧根管充填処置 手術用顕微鏡加算	透析液水質確保加算1
手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1(歯科)	一酸化窒素吸入療法
歯根端切除手術 2.歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合	磁気による膀胱等刺激法
歯周組織再生誘導手術	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
クラウン・ブリッジ維持管理料	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
CAD/CAM冠	骨移植術(軟骨移植術を含む。) 同種骨移植(特殊なもの)
歯科技工加算	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
歯科矯正診断料	腫瘍脊椎骨全摘術
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)	頭蓋骨形成手術 (骨移動を伴うものに限る。)
ウイルス疾患指導料 注2の加算	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
高度難聴指導管理料	羊膜移植術
糖尿病合併症管理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
がん性疼痛緩和指導管理料	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
がん患者指導管理料1	網膜再建術

がん患者指導管理料2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
がん患者指導管理料3	乳がんセンチネルリンパ節加算1 (乳腺悪性腫瘍手術)
外来緩和ケア管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2 (乳腺悪性腫瘍手術)
移植後患者指導管理料 臓器移植後	乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)(乳腺悪性腫瘍手術)
移植後患者指導管理料 造血幹細胞移植後	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
糖尿病透析予防指導管理料	内視鏡下筋層切開術
院内トリアージ実施料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
外来放射線照射診療料	経皮的大動脈弁置換術 ⇒ 経カテーテル大動脈弁置換術
ニコチン依存症管理料	経皮的中隔心筋焼灼術
がん治療連携計画策定料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
肝炎インターフェロン治療計画料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
薬剤管理指導料	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
医療機器安全管理料1	両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
医療機器安全管理料2	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
在宅患者訪問看護・指導料	補助人工心臓
同一建物居住者訪問看護・指導料	経皮的大動脈遮断術
持続血糖測定器加算	胆管悪性腫瘍手術 膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの
造血器腫瘍遺伝子検査	体外衝撃波胆石破碎術
遺伝学的検査の注	腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
HPV核酸検出 HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	腹腔鏡下肝切除術((亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
検体検査管理加算(IV)	生体部分肝移植術
国際標準検査管理加算(検体検査判断料加算)	同種死体肝移植術
遺伝カウンセリング加算	体外衝撃波膵石破碎術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術

植込型心電図検査	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
時間内歩行試験	同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
胎児心エコー法	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
ヘッドアップティルト試験	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
人工膵臓検査	腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
脳磁図	同種死体腎移植術
神経学的検査	生体腎移植術
ロービジョン検査判断料	膀胱水圧拡張術
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
小児食物アレルギー負荷検査	人工尿道括約筋植込・置換術
内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
画像診断管理加算1	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術【※小切開術】
画像診断管理加算2	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
ポジトロン断層撮影	輸血管理料Ⅰ
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	内視鏡手術用支援機器加算
コンピューター断層撮影(CT撮影)	麻酔管理料(Ⅰ)
冠動脈CT撮影加算	麻酔管理料(Ⅱ)
磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)	放射線治療専任加算
心臓MRI撮影加算	外来放射線治療加算
乳房MRI撮影加算	高エネルギー放射線治療
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	1回線量増加加算
外来化学療法加算1	強度変調放射線治療(IMRT)



無菌製剤処理料	画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	体外照射呼吸性移動対策加算
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	定位放射線治療
運動器リハビリテーション料 (I)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
呼吸器リハビリテーション料 (I)	密封小線源治療 画像誘導密封小線源治療加算
各リハビリテーションの初期加算	保険医療機関間の連携による病理診断
がん患者リハビリテーション料	テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
精神科作業療法	テレパソロジーによる術中迅速細胞診
精神科ショート・ケア「小規模なもの」	病理診断管理加算2
抗精神病特定薬剤治療指導管理料 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び交換術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・内視鏡下筋層切開術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平均週5回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 32 例 / 剖検率 11.30 %

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脂肪組織由来多系統前駆細胞を用いた抗炎症・肝線維溶解療法の開発	青井 貴之	iPS細胞応用医学	2,500,000	補 委 日本医療研究開発機構
小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験の実施研究	西尾 久美	疫学	6,500,000	補 委 日本医療研究開発機構
慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患に対する革新的治療薬を実現するための統合的研究体制の構築	岩切 大	感染症センター	2,470,000	補 委 日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルス構造解析による薬剤応答性の評価と新規治療薬開発に関する研究	矢野 嘉彦	感染病理学	1,500,000	補 委 日本医療研究開発機構
多施設共同研究による肝移植後肝炎ウイルス新規治療の確立と標準化	具 英成	肝胆臓外科学	300,001	補 委 日本医療研究開発機構
Borderline resectable肺癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究	具 英成	肝胆臓外科学	500,000	補 委 日本医療研究開発機構
骨肉腫の増悪化に関するRor2チロシンキナーゼの基質同定とその治療標的としての応用	林 真琴	細胞生理学	4,992,000	補 委 日本医療研究開発機構
抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の治療及び予後に関する研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	山田 秀人	産科婦人科学	3,510,000	補 委 日本医療研究開発機構
多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	的崎 尚	シグナル統合学	2,600,000	補 委 日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	1,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	1,300,000	補 委 日本医療研究開発機構
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	600,000	補 委 日本医療研究開発機構
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	390,000	補 委 日本医療研究開発機構
膵がん検診の効率化を目指した血液バイオマーカーの実用化研究	東 健	消化器内科学	12,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
小児難治性ネフローゼ症候群に対する新規治療法の開発を目指した全国多施設共同臨床試験	飯島 一誠	小児科学	50,960,000	補 委 日本医療研究開発機構
小児リンパ腫の標準的治療法確立のための研究	森 健	小児科学	1,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関する臨床試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	400,000	補 委 日本医療研究開発機構
医薬品としての薬事承認申請をめざしたアンチセンス核酸による福山型筋ジストロフィー治療薬探索と非臨床試験	戸田 達史	神経内科学	58,700,000	補 委 日本医療研究開発機構
次世代シーケンサーを用いた孤発性の神経難病の発症機構の解明と治療法開発に関する研究	戸田 達史	神経内科学	36,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
福山型筋ジストロフィーの自然歴の把握と病状を反映するバイオマーカーの検索	戸田 達史	神経内科学	16,655,000	補 委 日本医療研究開発機構
慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	西 慎一	腎臓・免疫内科学	1,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学	299,000	補 委 日本医療研究開発機構
違法ドラッグ等の薬物依存のトレンドを踏まえた病態の解明と診断・治療法の開発	曾良 一郎	精神医学	1,050,000	補 委 日本医療研究開発機構
血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究	菱本 明豊	精神医学	2,080,000	補 委 日本医療研究開発機構

小計  
25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳脊髄液サンプルを用いたうつ病バイオマーカーの開発	菱本 明豊	精神医学	1,300,000	補 委 日本医療研究開発機構
BPSDの予防法と発現機序に基づいた治療法・対応法の開発研究	山本 泰司	精神科神経科	511,888	補 委 日本医療研究開発機構
がん患者の重大症状に対する緩和治療開発に関する多施設共同臨床研究	木澤 義之	先端緩和医療学	2,750,000	補 委 日本医療研究開発機構
培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	1,408,000	補 委 日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスの感染複製機構の解明に関する研究	堀田 博	微生物学	9,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
C型肝炎から発がんに至る病態進展の解明とその制御に関する研究	堀田 博	微生物学	2,300,000	補 委 日本医療研究開発機構
C型肝炎の病態の解明と肝癌発症制御法の確立に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	2,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
ウイルス肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	3,900,000	補 委 日本医療研究開発機構
色素性乾皮症のIPS細胞を用いた病態解明と治療法の開発	錦織 千佳子	皮膚科学	32,726,000	補 委 日本医療研究開発機構
ゲノム不安定性を示す難治性遺伝性疾患群の症例収集とゲノム・分子機能解析による病態解明研究	錦織 千佳子	皮膚科学	2,400,000	補 委 日本医療研究開発機構
脂肪組織由来多系統前駆細胞を用いた抗炎症・肝線維溶解療法の開発	一瀬 晃洋	美容外科	2,500,000	補 委 日本医療研究開発機構
rasがん遺伝子産物の新規立体構造情報に基づいた分子標的治療薬の開発	片岡 徹	分子生物学	53,040,000	補 委 日本医療研究開発機構
吸収性スプレーを用いた体内空間可変粒子線治療の有用性と安全性の検討	佐々木 良平	放射線腫瘍科	21,725,000	補 委 日本医療研究開発機構
テロシキナーゼ阻害薬による慢性骨髄性白血病の治療を目的とした研究	南 陽介	輸血細胞治療部	1,200,000	補 委 日本医療研究開発機構
利便性の高い五種混合ワクチンの開発に向けた研究	森 康子	臨床ウイルス学	25,270,000	補 委 日本医療研究開発機構
ワクチンによって予防可能な疾患のサーベイランス強化と新規ワクチンの創出等に関する研究	森 康子	臨床ウイルス学	1,200,000	補 委 日本医療研究開発機構
大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン作成に関する研究	大北 裕	心臓血管外科学	350,000	補 委 日本医療研究開発機構
ホルモン受容体構築異常症診療ガイドライン作成のためのエビデンス構築に関する研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	650,000	補 委 日本医療研究開発機構
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	364,000	補 委 日本医療研究開発機構
プリオン病及び選発性ウイルス感染症の分子病態解明・治療法開発に関する研究	堀田 博	微生物学	975,000	補 委 日本医療研究開発機構
前向き大規模コホート研究において既に収集されているがん罹患前記料・情報を用いた発がんリスク要因の探索と層別化に関する研究	吉田 優	病因病態解析学	7,250,000	補 委 日本医療研究開発機構
腎・泌尿器系の希少・難治性疾患群に関する診断基準・診療ガイドラインの確立	飯島 一誠	小児科学	25,010,000	補 委 厚生労働省
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	錦織 千佳子	皮膚科学	28,159,000	補 委 厚生労働省
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	荒川 創一	地域医療ネットワーク学	5,500,000	補 委 厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	前田 貢作	小児外科学	120,000	補 委 厚生労働省
医療機関における感染制御に関する研究	荒川 創一	地域医療ネットワーク学	520,000	補 委 厚生労働省
小児におけるB型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究	森岡 一郎	小児科学	200,000	補 委 厚生労働省

小計 累計  
27 52

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	200,000	(補委) 厚生労働省
薬物乱用・依存者、性感染症患者のHIV感染状況及び内外のHIV流行等の動向に関する研究	荒川 創一	地域医療ネットワーク学	500,000	(補委) 厚生労働省
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	前田 貢作	小児外科学	520,000	(補委) 厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎臓・免疫内科学	200,000	(補委) 厚生労働省
機能亢進型GNAS変異関連疾患の表現型スペクトラムに関する研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	100,000	(補委) 厚生労働省
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	150,000	(補委) 厚生労働省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	前田 貢作	小児外科学	100,000	(補委) 厚生労働省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	戸田 達史	神経内科学	400,000	(補委) 厚生労働省
汎用性のある系統的な苦痛のスクリーニング手法の確立とスクリーニング結果に基づいたトリアージ体制の構築と普及に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	1,000,000	(補委) 厚生労働省
免疫毒性評価試験法Multi-ImmunoToxicity assayの国際validationへ向けての検討	大森 崇	臨床研究推進センター	900,000	(補委) 厚生労働省
小児疾患障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究—学校保健における思春期やせの早期発見システム構築、および発症要因と予後因子の	北山 真次	親と子の診療部	450,000	(補委) 厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	中村 誠	眼科学	100,000	(補委) 厚生労働省
スモンに関する調査研究	戸田 達史	神経内科学	500,000	(補委) 厚生労働省
がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	800,000	(補委) 厚生労働省
Whole Slide Imaging(WSI)による病理診断の多施設検証研究	伊藤 智雄	病理診断科	300,000	(補委) 厚生労働省
ラット筋損傷モデルにおける炭酸ガス経皮吸収の効果についての検討	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学/リハビリテーション科(部)	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
腱炎・腱鞘炎に対する炭酸ガス経皮吸収の有効性の検討	原田 理沙	リハビリテーション機能回復学/リハビリテーション科(部)	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
口腔内腫瘍病変の悪性化と環境因子の相関—TRPチャネルをめぐる—	榑原 晶子	医療の質・安全管理部	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
鍼治療による加齢性サルコペニア予防法の確立	大田 美香	医療情報部	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
視覚障害者向け患者用クリニカルパス(診療計画書)作成の研究	高岡 裕	医療情報部	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
転移性進行大腸癌に対するMDSCを標的とした新規治療戦略の開発	山本 将士	栄養管理部/医療技術部栄養管理部門	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
細胞内シグナル伝達経路を標的とする脊髄性筋萎縮症治療法の開発	西尾 久美	疫学	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
視覚障害患者への情報保障:適切な点字医療文章表現と文章自動変換プログラムの研究	池上 峰子	看護部	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
視機能異常の患者に対応した、病院内の施設と接遇に関する指針の確立	松浦 正子	看護部	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
子宮頸部異型性上皮内瘤の分子基盤の解明とそれに基づく治療方法の開発	須藤 保	肝胆膵外科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肝灌流化学療法システムへの白金製剤の導入	武部 敦志	肝胆膵外科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
間葉系幹細胞のメモリーB細胞、長寿命型抗体産生細胞に対する制御効果の解析	石田 潤	肝胆膵外科学	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

小計 累計

27 79

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
視神経脊髄炎における視神経炎モデル確立とその解析	金森 章泰	眼科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
網膜・視神経変性疾患におけるアクアポリンの関わり	中村 誠	眼科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
網膜血管新生におけるSIRT1の役割の解明及びSIRT1活性化経路の解析	松宮 亘	眼科学	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
糖尿病網膜症の発症におけるMrp4の役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
血管奇形悪化機序の解明 ～成長ホルモン受容体を巡って～	野村 正	形成外科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
メラノサイトの光受容機序を探る～光受容タンパク質の作用～	藤井 美樹	形成外科学	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
定量的タンパク質発現解析を利用したマイクロ解剖学アトラスの開発	橋川 和信	形成外科学	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
母斑(ほくろ)における毛髪誘導再生能の検討	寺師 浩人	形成外科学	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
特定波長光の照射・遮蔽による悪性黒色腫細胞の増殖コントロール	高須 啓之	形成外科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
造血幹細胞ニッチ制御モジュールの加齢性変化と造血システム異常の関連	片山 義雄	血液内科	5,590,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
造血制御中枢としての骨組織の評価	片山 義雄	血液内科	6,890,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
五感による造血制御:かおり	片山 義雄	血液内科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
生理的リンパ管・静脈吻合の形成機構と機能的意義	平島 正則	血管生物学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
トランス誘導による自己抗原特異的な免疫抑制療法	笠木 伸平	検査部	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
プロテオーム解析による肝細胞がんの再発予測	斉藤 雅也	検査部	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
細胞内代謝制御による関節リウマチの新規治療法の開発	三枝 淳	検査部	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
マイクロRNA含有エクソソームを用いた関節リウマチの新規治療の開発	中町 祐司	検査部	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Ex vivo lung perfusionを用いた新しい臓器保存法の確立	田中 雄悟	呼吸器外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肺腺癌浸潤における癌幹細胞の役割についてのiPS細胞技術を用いた研究	眞庭 謙昌	呼吸器外科	5,330,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肺腺癌浸潤における癌幹細胞の役割についてのiPS細胞技術を用いた研究	眞庭 謙昌	呼吸器外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アムルピシンによる薬剤耐性化機構の解析	立原 素子	呼吸器内科学	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ホスホリパーゼCεを介した急性肺障害の新規治療法の開発	小林 和幸	呼吸器内科学	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
EGFR-TKIによるEMTを介した肺癌の薬剤耐性獲得と肺線維化機序の解明	田村 大介	呼吸器内科学	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
気道炎症におけるホスホリパーゼCεの役割	永野 達也	呼吸器内科学	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
網羅的メタボローム解析によるインプラントリスクファクター検出法の確立	鈴木 泰明	口腔外科学/歯科口腔外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
質量分析計を用いた口腔がんスクリーニングの実用化	木本 明	口腔外科学/歯科口腔外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
顎顔面領域に発現する先天異常疾患の原因遺伝子探索	岡本 奈那	口腔外科学/歯科口腔外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

小計 累計  
27 106

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
LED光を用いた頭頸部癌化学放射線療法に伴う口腔粘膜炎の新規治療法の開発	古森 孝英	口腔外科学/歯科口腔外科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
局所的炭酸ガス投与による口腔癌転移抑制効果の検討	長谷川 巧実	口腔外科学/歯科口腔外科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
細胞間接着複合体に着眼した転移リンパ管内微小リンパ管網の特質性の解明	明石 昌也	口腔外科学/歯科口腔外科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
平面細胞極性シグナルの異常と繊毛関連症候群及び癌の浸潤転移	南 康博	細胞生理学	32,370,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
3次元細胞モデルを使って生体のキラリティーの由来を明らかにする	本多 久夫	細胞生理学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
RifIによるエメリンの分解制御とその核膜動態における役割	西田 満	細胞生理学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
メタボロミクスによる肝β細胞機能制御機構の解明とその臨床応用	清野 進	細胞生理学分野分子代謝医学部門	48,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
eAMPIによるインスリン分泌増強におけるグルタミン酸シグナルの役割の解明	高橋 晴美	細胞生理学分野分子代謝医学部門	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
栄養素によるインクレチン分泌制御メカニズムの解明	矢部 大介	細胞生理学分野分子代謝医学部門	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
子宮内膜の性周期および発癌過程におけるPITX1発現とテロメラーゼ制御の解析	蝦名 康彦	産科婦人科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
β2GPI/MHCクラスIIに対する自己抗体の証明と産科異常病因解析	山田 秀人	産科婦人科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
リンパ腫から見つかった「がん抑制遺伝子」が子宮癌の治療戦略を変える。	若橋 宣	産科婦人科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
頭頸部癌に対するヒト乳頭腫ウイルス遺伝子を標的とした薬学的治療の開発	大月 直樹	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
中咽頭癌治療効果とADH,ALDH遺伝子多型に関する研究	四宮 弘隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
色素性乾皮症モデルマウスを用いた進行性感音難聴の病態の解明と治療法の開発	小嶋 康隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
メタボロミクスによる頭頸部癌の診断・治療法の確立	森本 浩一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
音響外傷性難聴に対するプログラムされたネクロシスによる細胞死制御機構	山下 大介	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
嗅上皮形態形成の機構解明並びに嗅覚機能との結びつき	勝沼 紗矢香	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
エクソソームを用いた新たな頭頸部癌のバイオマーカーの開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
唾液腺癌の悪性度別機能と新たな全身治療の開発	四宮 瞳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
質量分析計を用いたがん転移早期検出法の開発	波多野 直哉	質量分析総合センター	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
急性骨髄性白血病の微小環境における治療抵抗性機序の解明および克服療法の基礎研究	南 陽介	腫瘍・血液内科学/腫瘍センター	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
乳癌および肺癌におけるTYRO3を標的とする治療法開発の妥当性の検討	南 博信	腫瘍・血液内科学/腫瘍センター	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
唾液腺がんの免疫組織学的特徴及び特異的遺伝子変化の探索	清田 尚臣	腫瘍・血液内科学/腫瘍センター	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
患者由来ゼノグラフトと3次元初代培養を用いた抗腫瘍薬感受性予測モデルの開発	向原 徹	腫瘍・血液内科学/腫瘍センター	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
Nogo分子を標的とする自然免疫と小胞体形成を介した新規白血病治療法の開発	松岡 広	腫瘍・血液内科学/腫瘍センター	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
粥状硬化の進展におけるHDL機能不全の役割に関する統合的研究	平田 健一	循環器内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血管内皮接着因子JCADが心血管病発症に及ぼす影響の解明	川合 宏哉	循環器内科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
我国におけるトランス脂肪酸の動脈硬化リスクとしての評価	新家 俊郎	循環器内科学	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
大動脈石灰化のCTイメージングとメタボローム解析による革新的治療法の探求	高谷 具史	循環器内科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
代謝制御機構解析に基づく新たな心不全治療戦略の構築	田中 秀和	循環器内科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
医工・産学連携研究による、虚血性心疾患に対する血行力学的新規アプローチ	大竹 寛雅	循環器内科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
動脈硬化における炎症・免疫機序の解明および新規治療法・予防法の開発	佐々木 直人	循環器内科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
トランス脂肪酸の深部静脈血栓症に及ぼす影響と分子メカニズムの解明	中島 英人	循環器内科学	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
胎児付属物由来の間葉系幹細胞を用いた新生児慢性肺疾患に対する新規治療の開発	溝淵 雅巳	小児科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Rabファミリー低分子量G蛋白質を標的とした神経芽腫の新しい治療法に関する研究	西村 範行	小児科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
次世代シーケンサーのメタゲノミック解析を用いた新生児感染症の病原微生物の同定	森岡 一郎	小児科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
超早産児における光線療法への適応基準確立のための多施設共同研究	中村 肇	小児科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
小児特発性ネフローゼ症候群におけるマイクロRNA発現の検討及び治療法の開発	松野下 夏樹	小児科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
DENN1ドメイン蛋白質による神経芽腫がん幹細胞の発生・分化制御機構の解明	山本 暢之	小児科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Ev5に注目した神経芽腫発症・進展の分子機構に関する研究	平瀬 敏志	小児科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新生児低酸素性虚血性脳症に対する自家間葉系幹細胞治療の開発	香田 翼	小児科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アルポート症候群の分子治療法の確立	飯島 一誠	小児科	4,810,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
先天性腎尿路奇形(CAKUT)の新規原因遺伝子の同定とIPS細胞による病態解明	森貞 直哉	小児科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
福山型筋ジストロフィーの臨床評価法の確立と核酸治療の適応拡大を目指した包括的研究	池田 真理子	小児科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
遺伝性塩類喪失性尿管機能異常症の発症メカニズムの解明および治療法の開発	野津 寛大	小児科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ヒトヘルペスウイルス6B感染児におけるCD134発現T細胞の証明	長坂 美和子	小児科	2,210,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
てんかん重症状態の脳傷害に対する間葉系幹細胞を用いた新規治療法の開発	西山 将広	小児科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ニホンウナギ由来蛍光蛋白質を用いた新しい血清アンパウンド・ビリルビン測定法の開発	岩谷 壮太	小児科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
低温プラズマ中で生成される活性種の詳細調査とプラズマ医療実現に向けた基礎研究	高松 利寛	消化器内科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
高脂肪食摂取が腸疾患に与える影響における腸内細菌と腸内代謝物の関与の検証	西海 信	消化器内科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
生体質感造形3Dプリンターによる臓器立体モデル腹腔鏡手術支援システムの確立	杉本 真樹	消化器内科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
病原菌/非病原菌認識機序におけるIL-10の役割とその調節の解明	星 奈美子	消化器内科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
血清メタボロミクスを用いた膵がんスクリーニング法の開発	小林 隆	消化器内科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

小計 累計

27 160



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大気低温プラズマの医療応用	東 健	消化器内科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アジア圏におけるヘリコバクター属細菌感染及びその関連消化器疾患予防対策調査研究	東 健	消化器内科	5,460,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アジア圏におけるヘリコバクター属細菌感染及びその関連消化器疾患予防対策調査研究	東 健	消化器内科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
多元計算解剖モデルと生体質感造形技術を融合した高度知能化治療支援システムの確立	杉本 真樹	消化器内科	2,210,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
H. suis感染による胃MALTRリンパ腫形成とTLR4シグナル活性化機構の解明	山本 幸司	消化器内科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
関連施設における乳頭括約筋機能障害の有病率及び内視鏡的圧測定法の診断妥当性の検証	増田 充弘	消化器内科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ケトン体が非アルコール性脂肪性肝疾患の進行に与える影響の解析	川野 佑輝	消化器内科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
次世代シーケンシング技術を用いた東アジア地域の高悪性化ピロリ菌に関する研究	岩本 彰	消化器内科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
視線追従・計測システムによる内視鏡手術における新しいトレーニング方法の確立	角 泰雄	食道胃腸外科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
消化器癌のがん微小環境を標的とした分子標的薬と抗腫瘍併用療法の開発	鈴木 知志	食道胃腸外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
NKT細胞の自然免疫と獲得免疫のクロストークを用いた癌治療法の開発	山下 公大	食道胃腸外科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
画像認識による新しい3次元動作追跡法を用いた3D内視鏡手術教育システムの開発	金治 新悟	食道胃腸外科	2,990,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
進行食道癌におけるペプチドプールを用いた術後補助免疫療法の確立	中村 哲	食道胃腸外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
マウス腎臓虚血モデルに対するヒト血管内皮前駆細胞移植による腎臓修復効果の検討	大北 裕	心臓血管外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
福山型筋ジストロフィーおよびジストログリカパチーの分子病態解明と治療薬開発	戸田 達史	神経内科学	13,520,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
筋萎縮性側索硬化症の早期診断における高密度表面筋電図の応用	関口 兼司	神経内科学	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
腸神経系におけるニューロン新生の新たな細胞ソースの同定とその生理的意義の解明	上坂 敏弘	神経分化・再生分野	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ステロイド性腎臓病の克服のための臨床的、基礎的研究	陸山 豪一	腎臓内科学部門/腎・血液浄化センター	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
明細胞肉腫の肺転移に対するホウ素中性子捕捉療法を用いた新たな治療方法の開発	藤本 卓也	腎泌尿器科学/泌尿器科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
尿路感染症分離菌におけるカルバペネマーゼ産生菌の研究	重村 克巳	腎泌尿器科学/泌尿器科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
精巣内精子回収法における新たな回収予測因子の確立	原口 貴裕	腎泌尿器科学/泌尿器科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
去勢抵抗性前立腺癌における上皮間葉転換の制御機構の解明と標的治療への応用	村蒔 基次	腎泌尿器科学/泌尿器科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
男性不妊における酸化ストレスの意義と新しい治療法の探求	千葉 公嗣	腎泌尿器科学/泌尿器科	780,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
移植腎3T-MRIにおける拡散係数値(ADC値)による腎線維化評価の有用性	石村 武志	腎泌尿器科学/泌尿器科	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
腎細胞癌に対するtemsirolimusおよびcystisens併用療法の検討	三宅 秀明	腎泌尿器科学/泌尿器科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
転移性腎細胞癌に対するHedgehog経路に対する新規標的治療	古川 順也	腎泌尿器科学/泌尿器科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
オートファジー制御による椎間板変性治療法の開発	由留部 崇	整形外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

小計 累計

27 187

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
前十字靭帯損傷における新たな客観的定量的評価方法の確立	荒木 大輔	整形外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
難治性骨折に対するCD34陽性細胞移植術における有効な新規治療法の開発	松本 知之	整形外科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
筋シナジーモデルに基づく5指駆動型電動義手制御法の提案と筋電義手処方支援	陳 隆明	整形外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肉腫幹細胞に対する炭酸ガス経皮投与を用いた新規治療の開拓	河本 旭哉	整形外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
炭酸ガスを利用した難治性骨折の新規治療法開発	新倉 隆宏	整形外科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
長寿命因子SIRT1による変形性関節症の治療の試み	松下 雄彦	整形外科	2,730,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
骨折治癒促進を目指した炭酸ガス経皮吸収法の確立	岩倉 崇	整形外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脛腓板由来細胞シートを用いた新しい脛板修復術の開発	美船 泰	整形外科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
椎間板の変性に関連する腰痛性疾患の病態の解明と、低侵襲治療システムの開発	西田 康太郎	整形外科	5,850,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
椎間板変性に対する薬物治療へのアプローチ	前野 耕一郎	整形外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
microRNAをターゲットとした新規骨再生療法の開発	大江 啓介	整形外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
p21発現制御による変形性関節症に対する治療への挑戦	西山 隆之	整形外科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
変形性関節症におけるEPAの治療薬としての有効性検討	林 申也	整形外科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
骨格筋内脂肪細胞によるアディポカインが慢性疼痛発生に及ぼす影響の解明	坂田 亮介	整形外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
炭酸ガス治療による人工膝関節置換術後リハビリテーション促進効果の解析	高山 孝治	整形外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
骨格筋におけるインスリン抵抗性惹起を引き起こす分子メカニズムの解析	伊集院 壮	生化学分野	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
スフィンゴシンーリン酸シグナリングによる癌転移メカニズムの解明	梶本 武利	生化学分野	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
自殺感受性遺伝子の中脳神経系における機能解析	菱本 明豊	精神医学/精神科神経科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
幼少期ストレスが成体海馬神経細胞新生に及ぼすエピジェネティクス作用の解析	朴 秀賢	精神医学/精神科神経科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
非健忘型アルツハイマー病患者のアミロイドPETを用いた脳アミロイド沈着の解析	山本 泰司	精神医学/精神科神経科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
統合失調症の神経免疫仮説におけるマクロファージ遊走阻止因子(MIF)の役割	岡崎 賢志	精神医学/精神科神経科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
iPS細胞を用いた統合失調症グルタミン酸仮説の検討	毛利 健太郎	精神医学/精神科神経科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
わが国におけるアドバンスケアプランニングの方法論の確立とその有効性に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学/緩和支援診療科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
終末期の話し合いの実態と生活の質・遺族の健康に及ぼす影響に関する研究	山口 崇	先端緩和医療学/緩和支援診療科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
がん疼痛治療における非ステロイド性消炎鎮痛薬の中止に関する検討	坂下 明大	先端緩和医療学/緩和支援診療科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
マイクロRNAによるリウマチ関節破骨細胞制御に関する研究	河野 誠司	総合臨床教育センター	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
転写後調節因子YFL1によるB細胞リンパ腫発症メカニズムの解明	皆川 健太郎	糖尿病・内分泌内科学部門	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

小計 累計

27 214

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肥満病態形成におけるPGC1 $\alpha$ 新規スプライシングバリエーションの役割	野村 和弘	糖尿病・内分泌内科学部門	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
2型糖尿病関連遺伝子Kcnq1遺伝子領域が $\beta$ 細胞に及ぼす影響の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌内科学部門	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新規糖尿病治療薬としてのEpac2A活性化化合物の同定	菅原 健二	糖尿病・内分泌内科学部門	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
高脂肪食による糖尿病発症機序における細胞内アミノ酸濃度センサーGCN2の役割	木村 真希	糖尿病・内分泌内科学部門	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
iPS細胞を用いた機能性下垂体腫瘍の病態解明と創薬	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学部門	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
PGC1 $\alpha$ による骨格筋エネルギー代謝制御機構の解析	小川 涉	糖尿病・内分泌内科学部門	7,280,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
2型糖尿病に対する新規分子標的薬の確立	松田 友和	糖尿病・内分泌内科学部門	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脂肪細胞の質的異常モデルを用いた代謝異常症およびNASHの分子機構の解明	細岡 哲也	糖尿病・内分泌内科学部門	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
PKG/VASPシグナルの糖代謝に与える影響の解明	楯谷 三四郎	糖尿病・内分泌内科学部門	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
自己免疫性下垂体疾患の発症メカニズムの解明と臨床応用	井口 元三	糖尿病・内分泌内科学部門	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
下垂体腺腫発症に関連するlncRNAの探索とその機能解析	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科学部門	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
1型糖尿病でのスカベンジャー受容体SR-AとTLR4のクロストークの役割の解明	清水 まみ	糖尿病・内分泌内科学部門	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
被曝のない血管内治療外科の確立に関する研究	藤田 敦史	脳神経外科	780,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
IDH変異とマイクロRNA異常—IDH変異によるグリオーマ発生メカニズムの解析—	篠山 隆司	脳神経外科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
機能的脳神経疾患の放射線治療: マイクロビームX線による選択的神経細胞死の応用	近藤 威	脳神経外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
マイクロRNA—21を用いた新たな脳梗塞治療薬の開発	水川 克	脳神経外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
mTORシグナルを介したグルタミン代謝機構の解析とグリオーマ新規治療法の開発	田中 一寛	脳神経外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
メタボローム解析を用いたグリオーマにおける新規バイオマーカーの探索	甲村 英二	脳神経外科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
MR解析に基づく変位・変形能を反映した精緻脳模型の開発	林 成人	脳神経外科	3,640,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
虚血および再灌流時の脳組織代謝変化のオミクスによる包括的解析	細田 弘吉	脳神経外科	3,120,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
中枢神経性リンパ腫におけるJAK—STAT阻害薬による新たな治療法の開発	西原 賢在	脳神経外科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
経鼻的内視鏡下頭蓋底手術システムの構築のための研究	谷口 理章	脳神経外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
髄液中マイクロRNAとメタボローム融合による新たな脳腫瘍診断・病態解析法の構築	中溝 聡	脳神経外科	2,600,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
メタボローム解析による術中MRS精度の検証	甲田 将章	脳神経外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
紫外線・活性酸素由来のDNA損傷における皮膚発癌メカニズム; 炎症はどうか関与する?	国定 充	皮膚科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
悪性黒色腫、乾癬の新しい治療戦略におけるIL—23とIL—27の役割とその応用	永井 宏	皮膚科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
皮膚炎症、皮膚発癌、白内障、及び乾癬におけるPLC $\epsilon$ -PKC $\mu$ 経路の役割解析	岡 昌宏	皮膚科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
紫外線皮膚炎の終息における表皮ランゲルハンス細胞・アポトーシス細胞の役割	福永 淳	皮膚科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
乾癬、皮膚炎症、皮膚発疹、及び白内障におけるPLCε- PKCμ経路の役割解析	坂口 正展	皮膚科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
色素性乾皮症における症状とDNA修復能との解析および治療の探索	中野 英司	皮膚科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
悪性黒色腫の免疫治療における骨髄由来抑制細胞の動態・機能解析とその制御	藤原 進	皮膚科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
異種細胞間接着におけるネクチンの機能と作用機構	高井 義美	病態シグナル学部門	11,700,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
上皮細胞の競合に関与する細胞間接着分子の同定と作用機構の解明	高井 義美	病態シグナル学部門	19,370,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ネクチン様分子によるErbBファミリーシグナルの制御機構	水谷 清人	病態シグナル学部門	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
腫瘍関連M2マクロファージを基軸とした食道扁平上皮癌微小環境の解析	横崎 宏	病理学	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
IgG4関連硬化性胆管炎の網羅的組織プロテオーム・リン酸化修飾解析	全 陽	病理診断学/病理診断科/病理部	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
C型肝炎ウイルスの脂肪滴形成機構	勝二 郁夫	附属感染症センター	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
心筋梗塞発症および冠動脈病変不安定化に関わるバイオマーカーの同定	塩見 雅志	附属動物実験施設	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
世界初の急性冠症候群疾患モデルの実現	小池 智也	附属動物実験施設	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
細胞選別にに基づく自己組織的な組織構築機構の解明	富樫 英	分子細胞生物学分野	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脳形成・神経機能に関わる新しい機能ドメイン“ポストリン酸糖鎖”の確立	金川 基	分子脳科学	4,680,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
解離性大動脈瘤モデル作成とこれを用いた適切な血管内治療法の評価	杉本 幸司	放射線医学/放射線科	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
VX2担癌ウサギモデルにおける選択的動脈内炭酸ガス注入治療の効果の検討	山口 雅人	放射線医学/放射線科	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
外傷性肝後面下大静脈損傷に対する新たな血管内治療法の開発	井戸口 孝二	放射線医学/放射線科	520,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
MRIによる肝血管内皮機能測定法の開発	吉川 武	放射線医学/放射線科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
機能画像における3次元呼吸運動評価法の開発と臨床応用	神山 久信	放射線医学/放射線科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
磁気共鳴画像による微小循環障害の定量評価:反応性充血に対するBOLD効果を用いて	河野 淳	放射線医学/放射線科	780,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
高分解能拡散強調画像は、子宮体癌診断において造影検査を不要とできるか?	上野 嘉子	放射線医学/放射線科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ドセタキセル溶出性ビーズによる肝動脈化学塞栓療法の基礎的研究	岡田 卓也	放射線医学/放射線科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
超短エコー時間核磁気共鳴画像法を用いた新たな肺形態・機能画像診断法の開発	大野 良治	放射線医学/放射線科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脂肪定量MRIによるNASHスクリーニング: R2*を用いた至適カットオフ値の検討	祖父江 慶太郎	放射線医学/放射線科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アジア人及び高齢者を対象としたMRI対応画像誘導小線源治療用アプリケーションの開発	上 蘭 玄	放射線医学/放射線科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
放射線治療における腸管の耐容能向上を図る機能性食品の開発	江島 泰生	放射線腫瘍科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新規開発高描出能腫瘍拡張スプレーサーを用いた3次元画像誘導小線源治療の確立	吉田 賢史	放射線腫瘍科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
放射光を用いた高解像格子状照射による腫瘍および正常組織の生物学的効果の基礎的研究	西村 英輝	放射線腫瘍科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
頭頸部悪性黒色腫に対する重粒子線治療における患者検体遺伝子解析による予後予測	出水 祐介	放射線腫瘍科	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
抗癌化物質と吸収性スプレーの2方向性腸管防護による新規肺癌放射線治療の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
放射光マイクロビームX線を用いた放射線抵抗腫瘍に対する超高線量放射線治療の検討	椋本 成俊	放射線腫瘍科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
過酸化チタンナノ粒子を用いた新規放射線増感療法の基礎研究	中山 雅央	放射線腫瘍科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
ナノ粒子化したチタン酸化物を用いた新規放射線増感療法	佐々木 良平	放射線腫瘍科	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
体内吸収性スプレーを用いた臓腫瘍の空間可変放射線治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	6,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
プロフィラクティック食品の消化管有害反応低減によるメタボリック放射線療法	岡本 欣晃	放射線腫瘍科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
放射光白色X線を用いた超高線量率X線照射における放射線生物学的効果についての検討	宮脇 大輔	放射線腫瘍科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
フラットニングフィルターフリービームの基本物理線量特性に関する研究	尾方 俊至	放射線腫瘍科	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
Platelet Rich Plasmaを用いた新規放射線有害事象の治療法開発	松尾 圭朗	放射線腫瘍科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
心臓性突然死におけるオステオプロテグリン遺伝子発現の解析	近藤 武史	法医学	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
新生児期の術後痛がもたらす神経発達異常におけるエピジェネティック制御の関与	野村 有紀	麻酔科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
侵害受容性、神経障害性、がん性の痛みに対する多角的治療の効果	溝渕 知司	麻酔科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
n-3系脂肪酸がChREBPの分解を促進する分子メカニズムの解明	中川 勉	薬剤部	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
分子標的治療薬による皮膚障害発症メカニズムに基づく新規予防・治療法の探索	山本 和宏	薬剤部	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
心不全発症・進展の超早期予知を目的とした新規バイオマーカーの探索	杜 隆嗣	立証検査医学分野	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
代謝から理解する上皮間葉転換の分子機序の解明とがん診断・創薬への応用	入野 康宏	立証検査医学分野	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
腸管神経系の形成と維持における組織間相互作用	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	18,200,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
マルチターゲットメタボミクスを用いたがん診断システムの開発	吉田 優	病因病態解析学	5,330,000	補委 独立行政法人日本学術振興機構
包括的メタボミクスによるバイオマーカー探索、ならびに、医療質量分析システム開発	吉田 優	病因病態解析学	50,297,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
候補代謝産物BMの核酸を用いた検証	戸田 達史	神経内科学	5,200,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
骨を要とする多臓器恒常性維持機構の解明	片山 義雄	血液内科	10,010,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期hANP投与の多施設共同ランダム化第Ⅱ相比較試験	眞庭 謙昌	呼吸器外科学	4,320,000	補委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
診療録直結型糖尿病データベース構築に向けた病院への情報システム導入、システムを用いた情報収集の管理	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学分野	540,000	補委 国立国際医療研究センター
型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来療法とのランダム化比較試験	坂口 一彦	糖尿病・内分泌・総合内科学	500,000	補委 公益財団法人日本糖尿病財団
全自動超早期大腸がんスクリーニング診断システムの実用化/高精度診断予測式の確定と臨床実効性検証	吉田 優	病因病態解析学	24,895,000	補委 株式会社島津製作所(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
次世代乳癌スクリーニングのためのマイクロ波散乱場断面イメージングシステムの開発	田中 優子	乳腺内分泌外科	690,000	補 委 神戸大学(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
国産医療機器創出促進基盤整備等事業	藤澤 正人	病院長	3,549,700	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
地域イノベーション戦略支援プログラム	東 健	消化器内科学	50,226,071	補 委 文部科学省
7大学連携先端がん教育基盤創造プラン	南 博信	腫瘍・血液内科学/腫瘍センター	21,136,000	補 委 近畿大学(文部科学省)
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療開発を目指した基盤研究	戸田 達史	神経内科学	1,000,000	補 委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
治験の実施に関する研究[アルペカシン硫酸塩]	飯島 一誠	小児科学	300,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
治験の実施に関する研究[A型ボツリヌス毒素]	森本 浩一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,280,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
頭頸部がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	400,000	補 委 国立研究開発法人国立がん研究センター
頭頸部癌に対する術後化学放射線療法の開発	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	400,000	補 委 国立研究開発法人国立がん研究センター
がん微小環境を標的とした革新的治療法の実現(がん微小環境を制御するRas/Rap標的蛋白質PLCεの選択的阻害剤の開発)	片岡 徹	分子生物学	8,000,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん微小環境を標的とした革新的治療法の実現(免疫細胞-がん細胞相互作用を制御する新たながん治療法の実現)	的崎 尚	シグナル統合学	21,000,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん関連遺伝子産物の転写後発現調節を標的とした治療法の実現	高井 義美	病態シグナル学部門	17,000,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
早期診断マルチバイオマーカーの開発(マルチオームコホートによるすい臓がんに対する早期・リスクマルチマーカーの開発)/⑩メタボロミクスによる代謝物分析	吉田 優	病因病態解析学	5,000,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計 累計  
13 308

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Emoto T, Yamashita T, Sasaki N, Hirota Y, Hayashi T, So A, Kasahara K, Yodoi K, Matsumoto T, Mizoguchi T, Ogawa W, Hirata KI	循環器内科	Analysis of Gut Microbiota in Coronary Artery Disease Patients: a Possible Link between Gut Microbiota and Coronary Artery Disease	J Atheroscler Thromb. 2016 Mar 5
2	Yodoi K, Yamashita T, Sasaki N, Kasahara K, Emoto T, Matsumoto T, Kita T, Sasaki Y, Mizoguchi T, Sparwasser T, Hirata K	循環器内科	Foxp3 Regulatory T Cells Play a Protective Role in Angiotensin II-Induced Aortic Aneurysm Formation in Mice	Hypertension. 2015 Apr; 65(4): 889-95
3	Yamashita T, Kasahara K, Emoto T, Matsumoto T, Mizoguchi T, Kitano N, Sasaki N, Hirata K	循環器内科	Intestinal Immunity and Gut Microbiota as Therapeutic Targets for Preventing Atherosclerotic Cardiovascular Diseases	Circ J. 2015 ; 79(9): 1882-90
4	T Oshita, H Kawano, T Takamatsu, H Miyahara, A Okino	消化器内科	Temperature Controllable Atmospheric Plasma Source	IEEE Trans Plasma Sci IEEE Nucl Plasma Sci Soc. 2015 ; 43(6): 1987- 1992
5	Takamatsu T, Uehara K, Sasaki Y, Hidekazu M, Matsumura Y, Iwasawa A, Ito N, Kohno M, Azuma T, Okino A	消化器内科	Microbial Inactivation in the Liquid Phase Induced by Multigas Plasma Jet	PLoS One. 2015 Jul 14; 10(7): e0132381- e0132381
6	Hirata Y, Fukuoka H, Iguchi G, Iwahashi Y, Fujita Y, Hari Y, Iga M, Nakajima S, Nishimoto Y, Mukai M, Hirota Y, Sakaguchi K, Ogawa W, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	Median-lower normal levels of serum thyroxine are associated with low triiodothyronine levels and body temperature in patients with central hypothyroidism	Eur J Endocrinol. 2015 Aug; 173(2): 247-56

小計 6

7	Asahara S, Etoh H, Inoue H, Teruyama K, Shibutani Y, Ihara Y, Kawada Y, Bartolome A, Hashimoto N, Matsuda T, Koyanagi-Kimura M, Kanno A, Hirota Y, Hosooka T, Nagashima K, Nishimura W, Inoue H, Matsumoto M, Higgins MJ, Yasuda K, Inagaki N, Seino S, Kasuga M, Kido Y	糖尿病・内分泌内科	Paternal allelic mutation at the Kcnq1 locus reduces pancreatic $\beta$ -cell mass by epigenetic modification of Cdkn1c	Proc Natl Acad Sci U S A. 2015 Jul 7; 112(27): 8332-7
8	Kuroda M, Shinke T, Sakaguchi K, Otake H, Takaya T, Hirota Y, Osue T, Kinutani H, Konishi A, Takahashi H, Terashita D, Uzu K, Hirata K	糖尿病・内分泌内科	Association between daily glucose fluctuation and coronary plaque properties in patients receiving adequate lipid-lowering therapy assessed by continuous glucose monitoring and optical coherence tomography	Cardiovasc Diabetol. 2015 Jun 11; 14: 78-78
9	Kuroda M, Shinke T, Sakaguchi K, Otake H, Takaya T, Hirota Y, Sugiyama D, Nakagawa M, Hariki H, Inoue T, Osue T, Taniguchi Y, Iwasaki M, Nishio R, Kinutani H, Konishi A, Hiranuma N, Takahashi H, Terashita D, Hirata K	糖尿病・内分泌内科	Effect of daily glucose fluctuation on coronary plaque vulnerability in patients pre-treated with lipid-lowering therapy: a prospective observational study	JACC Cardiovasc Interv. 2015 May; 8(6): 800-11
10	Mochizuki Y, Tanaka H, Matsumoto K, Sano H, Toki H, Shimoura H, Ooka J, Sawa T, Motoji Y, Ryo K, Hirota Y, Ogawa W, Hirata K	糖尿病・内分泌内科	Association of peripheral nerve conduction in diabetic neuropathy with subclinical left ventricular systolic dysfunction	Cardiovasc Diabetol. 2015 May 7; 14: 47-47
11	Emoto T, Yamashita T, Sasaki N, Hirota Y, Hayashi T, So A, Kasahara K, Yodoi K, Matsumoto T, Mizoguchi T, Ogawa W, Hirata KI	糖尿病・内分泌内科	Clinical features of subclinical left ventricular systolic dysfunction in patients with diabetes mellitus	Cardiovasc Diabetol. 2015 Apr 17; 14: 37-37



12	Matsumoto R, Fukuoka H, Iguchi G, Odake Y, Yoshida K, Bando H, Suda K, Nishizawa H, Takahashi M, Yamada S, Ogawa W, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	Accelerated Telomere Shortening in Acromegaly; IGF-I Induces Telomere Shortening and Cellular Senescence	PLoS One. 2015 Oct 8; 10(10): e0140189-e0140189
13	Ijuin T, Hosooka T, Takenawa T	糖尿病・内分泌内科	Phosphatidylinositol 3,4,5-Trisphosphate Phosphatase SKIP Links Endoplasmic	Mol Cell Biol. 2015 Oct 19; 36(1):
14	Yoshida K, Fukuoka H, Matsumoto R, Bando H, Suda K, Nishizawa H, Iguchi G, Ogawa W, Webb SM, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	The quality of life in acromegalic patients with biochemical remission by surgery alone is superior to that in those with pharmaceutical therapy without radiotherapy, using the newly developed Japanese version of the AcroQoL	Pituitary. 2015 Dec; 18(6): 876-83
15	Nakamura T, Sakaguchi K, So A, Nakajima S, Takabe M, Komada H, Okuno Y, Hirota Y, Nakamura T, Iida K, Kajikawa M, Nagata M, Ogawa W, Seino S	糖尿病・内分泌内科	Effects of insulin degludec and insulin glargine on day-to-day fasting plasma glucose variability in individuals with type 1 diabetes: a multicentre, randomised, crossover study	Diabetologia. 2015 Sep; 58(9): 2013-9
16	Ijuin T, Hatano N, Hosooka T, Takenawa T	糖尿病・内分泌内科	Regulation of insulin signaling in skeletal muscle by PIP3 phosphatase, SKIP, and endoplasmic reticulum molecular chaperone glucose-regulated protein 78	Biochim Biophys Acta. 2015 Dec; 1853(12): 3192-201
17	Fujiwara Y, Kobayashi S, Nagano H, Kanai M, Hatano E, Toyoda M, Ajiki T, Takashima Y, Yoshimura K, Hamada A, Minami H, Ioka T	腫瘍・血液内科	Pharmacokinetic Study of Adjuvant Gemcitabine Therapy for Biliary Tract Cancer following Major Hepatectomy (KHBO1101)	PLoS One. 2015 Dec 3; 10(12): e0143072-e0143072
18	Imamura Y, Mukohara T, Shimono Y, Funakoshi Y, Chayahara N, Toyoda M, Kiyota N, Takao S, Kono S, Nakatsura T, Minami H	腫瘍・血液内科	Comparison of 2D- and 3D-culture models as drug-testing platforms in breast cancer	Oncol Rep. 2015 Apr; 33(4): 1837-43
19	Koyama H, Ohno Y, Fujisawa Y, Seki S, Negi N, Murakami T, Yoshikawa T, Sugihara N, Nishimura Y, Sugimura K	放射線科	3D lung motion assessments on inspiratory/expiratory thin-section CT: Capability for pulmonary functional loss of smoking-related COPD in comparison with lung destruction and air trapping	Eur J Radiol. 2016 Feb; 85(2): 352-9

20	Akashi M, Shibuya Y, Takahashi S, Hashikawa K, Hasegawa T, Kakei Y, Negi N, Sekitani T, Komori T	放射線科	Four-dimensional computed tomography evaluation of jaw movement following mandibular reconstruction: A pilot study	J Craniomaxillofac Surg. 2016 Feb 18
21	Nishii T, Kono AK, Tani W, Suehiro E, Negi N, Takahashi S, Sugimura K	放射線科	Four-dimensional noise reduction using the time series of medical computed tomography datasets with short interval times: a static-phantom study	PeerJ. 2016 Feb 9; 4: e1680-e1680
22	Ohno Y, Seki S, Koyama H, Yoshikawa T, Matsumoto S, Takenaka D, Kassai Y, Yui M, Sugimura K	放射線科	3D ECG- and respiratory-gated non-contrast-enhanced (CE) perfusion MRI for postoperative lung function prediction in non-small-cell lung cancer patients: A comparison with thin-section quantitative computed tomography, dynamic CE-perfusion MRI, and perfusion scan	J Magn Reson Imaging. 2015 Aug; 42(2): 340-53
23	Ohno Y, Koyama H, Yoshikawa T, Takenaka D, Kassai Y, Yui M, Matsumoto S, Sugimura K	放射線科	Diffusion-weighted MR imaging using FASE sequence for 3T MR system: Preliminary comparison of capability for N-stage assessment by means of diffusion-weighted MR imaging using EPI sequence, STIR FASE imaging and FDG PET/CT for non-small cell lung cancer patients	Eur J Radiol. 2015 Nov; 84(11): 2321-31
24	Ueno Y, Takahashi S, Ohno Y, Kitajima K, Yui M, Kassai Y, Kawakami F, Miyake H, Sugimura K	放射線科	Computed diffusion-weighted MRI for prostate cancer detection: the influence of the combinations of b-values	Br J Radiol. 2015 Apr; 88(1048): 20140738-20140738
25	Ohno Y, Koyama H, Yoshikawa T, Seki S, Takenaka D, Yui M, Lu A, Miyazaki M, Sugimura K	放射線科	Pulmonary high-resolution ultrashort TE MR imaging: Comparison with thin-section standard- and low-dose computed tomography for the assessment of pulmonary parenchyma diseases	J Magn Reson Imaging. 2016 Feb; 43(2): 512-32
26	Nomura Y, Sugimoto K, Gotake Y, Yamanaka K, Sakamoto T, Muradi A, Okada T, Yamaguchi M, Okita Y	放射線科	Comparison of Volumetric and Diametric Analysis in Endovascular Repair of Descending Thoracic Aortic Aneurysm	Eur J Vasc Endovasc Surg. 2015 Jul; 50(1): 53-9
27	Ejima Y, Matsuo Y, Sasaki R	放射線腫瘍科	The current status and future of radiotherapy for spinal bone metastases	J Orthop Sci. 2015 Jul; 20(4): 585-92
28	Shinomiya H, Hasegawa S, Yamashita D, Ejima Y, Kenji Y, Otsuki N, Kiyota N, Sakakibara S, Nomura T, Hashikawa K, Kohmura E, Sasaki R, Nibu KI	放射線腫瘍科	Concomitant chemoradiotherapy for advanced squamous cell carcinoma of the temporal bone	Head Neck. 2015 May 20

29	Nishiyama M, Nagase H, Tanaka T, Fujita K, Kusumoto M, Kajihara S, Yamaguchi Y, Maruyama A, Takeda H, Uetani Y, Tomioka K, Toyoshima D, Taniguchi-Ikeda M, Morioka I, Takada S, Iijima K	小児科	Short and long-term outcomes in children with suspected acute encephalopathy	Brain Dev. 2016 Mar 4
30	Yamamoto N, Kozaki A, Hartomo TB, Yanai T, Hasegawa D, Kawasaki K, Kosaka Y, Matsuo M, Hirase S, Mori T, Hayakawa A, Iijima K, Nishio H, Nishimura N	小児科	Differential expression of minimal residual disease markers in peripheral blood and bone marrow samples from high-risk neuroblastoma patients	Oncol Lett. 2015 Nov; 10(5): 3228- 3232
31	Fujita K, Nagase H, Nakagawa T, Saji Y, Maruyama A, Uetani Y	小児科	Non-convulsive seizures in children with infection-related altered mental status	Pediatr Int. 2015 Aug; 57(4): 659-64
32	Toyoshima D, Morisada N, Takami Y, Kidokoro H, Nishiyama M, Nakagawa T, Ninchoji T, Nozu K, Takeshima Y, Takada S, Nishio H, Iijima K	小児科	Rituximab treatment for relapsed opsoclonus-myoclonus syndrome	Brain Dev. 2016 Mar; 38(3): 346-9
33	Nishiyama M, Nagase H, Tanaka T, Fujita K, Maruyama A, Toyoshima D, Nakagawa T, Taniguchi-Ikeda M, Morioka I, Morisada N, Takada S, Iijima K	小児科	Demographics and outcomes of patients with pediatric febrile convulsive status epilepticus	Pediatr Neurol. 2015 May; 52(5): 499-503
34	Ono R, Masaki T, Mayca Pozo F, Nakazawa Y, Swagemakers SM, Nakano E, Sakai W, Takeuchi S, Kanda F, Ogi T, van der Spek PJ, Sugasawa K, Nishigori C	皮膚科	A ten-year follow up of a child with mild case of xeroderma pigmentosum complementation group D diagnosed by whole genome sequencing	Photodermatol Photoimmunol Photomed. 2016 Mar 19

35	Goto N, Bazar G, Kovacs Z, Kunisada M, Morita H, Kizaki S, Sugiyama H, Tsenkova R, Nishigori C	皮膚科	Detection of UV-induced cyclobutane pyrimidine dimers by near-infrared spectroscopy and aquaphotomics	Sci Rep. 2015 Jul 2; 5: 11808-11808
36	Nagai H, Oiso N, Tomida S, Sakai K, Fujiwara S, Nakamachi Y, Kawano S, Kawada A, Nishio K, Nishigori C	皮膚科	Epidermolysis bullosa simplex with mottled pigmentation with noncicatrical alopecia: Identification of a recurrent p.P25L mutation in KRT5 in four affected family members	Br J Dermatol. 2015 Aug 19
37	Hishimoto A, Nomaru H, Ye K, Nishi A, Lim J, Aguilan JT, Nieves E, Kang G, Angeletti RH, Hiroi N	精神科神経科	Molecular Histochemistry Identifies Peptidomic Organization and Reorganization Along Striatal Projection Units	Biol Psychiatry. 2016 Mar 1; 79(5): 415-20
38	Otsuka I, Watanabe Y, Hishimoto A, Boku S, Mouri K, Shiroyiwa K, Okazaki S, Nunokawa A, Shirakawa O, Someya T, Sora I	精神科神経科	Association analysis of the Cadherin13 gene with schizophrenia in the Japanese population	Neuropsychiatr Dis Treat. 2015 Jun 2; 11: 1381-93
39	Kizawa Y, Morita T, Miyashita M, Shinjo T, Yamagishi A, Suzuki S, Kinoshita H, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K	緩和支援治療科	Improvements in Physicians' Knowledge, Difficulties, and Self-Reported Practice After a Regional Palliative Care Program	J Pain Symptom Manage. 2015 Aug; 50(2): 232-40
40	Yamaguchi T, Morita T, Nitto A, Takahashi N, Miyamoto S, Nishie H, Matsuoka J, Sakurai H, Ishihara T, Tarumi Y, Ogawa A	緩和支援治療科	Establishing Cutoff Points for Defining Symptom Severity Using the Edmonton Symptom Assessment System-Revised Japanese Version	J Pain Symptom Manage. 2016 Feb; 51(2): 292-7
41	Otowa Y, Yamashita K, Kanemitsu K, Sumi Y, Yamamoto M, Kanaji S, Imanishi T, Nakamura T, Suzuki S, Tanaka K, Kakeji Y	食道胃腸外科	Treating patients with advanced rectal cancer and lateral pelvic lymph nodes with preoperative chemoradiotherapy based on pretreatment imaging	Onco Targets Ther. 2015 Oct 29; 8: 3169-73
42	Matsuda T, Iwasaki T, Hirata K, Tsugawa D, Sugita Y, Sumi Y, Kakeji Y	食道胃腸外科	A Three-Step Method for Laparoscopic Mobilization of the Splenic Flexure	Ann Surg Oncol. 2015 Dec; 22(Suppl 3): 335-335

43	Takiguchi G, Nishita M, Kurita K, Kakeji Y, Minami Y	食道胃腸外科	Wnt5a-Ror2 signaling in mesenchymal stem cells promotes proliferation of gastric cancer cells by activating CXCL16-CXCR6 axis	Cancer Sci. 2015 Dec 28
44	Kakeji Y, Kuroda D, Nakamura T, Suzuki S, Yamamoto M, Kanaji S, Imanishi T, Tanaka K	食道胃腸外科	Ultrasonic shears assistance can shorten the console time in robotic gastrectomy for early gastric cancer	BMC Res Notes. 2015 Sep 15; 8: 443-443
45	Oshikiri T, Yasuda T, Kawasaki K, Harada H, Oyama M, Hasegawa H, Ohara T, Sendo H, Nakamura T, Fujino Y, Tominaga M, Kakeji Y	食道胃腸外科	Hand-assisted laparoscopic surgery (HALS) is associated with less-restrictive ventilatory impairment and less risk for pulmonary complication than open laparotomy in thoracoscopic esophagectomy	Surgery. 2016 Feb; 159(2): 459-66
46	Otowa Y, Nakamura T, Takiguchi G, Yamamoto M, Kanaji S, Imanishi T, Oshikiri T, Suzuki S, Tanaka K, Kakeji Y	食道胃腸外科	Safety and benefit of curative surgical resection for esophageal squamous cell cancer associated with multiple primary cancers	Eur J Surg Oncol. 2016 Mar; 42(3): 407-11
47	Otsubo D, Yamashita K, Fujita M, Nishi M, Kimura Y, Hasegawa H, Suzuki S, Kakeji Y	食道胃腸外科	Early-phase Treatment by Low-dose 5-Fluorouracil or Primary Tumor Resection Inhibits MDSC-mediated Lung Metastasis Formation	Anticancer Res. 2015 Aug; 35(8): 4425-31
48	Matsuda T, Iwasaki T, Mitsutsuji M, Hirata K, Maekawa Y, Tanaka T, Shimada E, Kakeji Y	食道胃腸外科	Cranial-to-caudal approach for radical lymph node dissection along the surgical trunk in laparoscopic right hemicolectomy	Surg Endosc. 2015 Apr; 29(4): 1001-1001
49	Oshikiri T, Yamamoto Y, Miki I, Tsuda M, Nakamura T, Fujino Y, Tominaga M, Kakeji Y	食道胃腸外科	Conservative reconstruction using stents as salvage therapy for disruption of esophago-gastric anastomosis	World J Gastroenterol. 2015 Jul 28; 21(28): 8723-9
50	Matsuda T, Iwasaki T, Mitsutsuji M, Hirata K, Tsugawa D, Sugita Y, Shimada E, Kakeji Y	食道胃腸外科	A Simple and Reliable Method for Intracorporeal Circular-Stapled Esophagojejunostomy Using a Hand-Sewn Over-and-Over Suture Technique in Laparoscopic Total Gastrectomy	Ann Surg Oncol. 2015 Dec; 22(Suppl 3): 355-355

51	Suzuki S, Nakamura T, Imanishi T, Kanaji S, Yamamoto M, Kanemitsu K, Yamashita K, Sumi Y, Tanaka K, Kuroda D, Kakeji Y	食道胃腸外科	Carbon dioxide pneumoperitoneum led to no severe morbidities for the elderly during laparoscopic-assisted distal gastrectomy	Ann Surg Oncol. 2015 May; 22(5): 1548-54
52	Inoue J, Ono R, Makiura D, Kashiwa-Motoyama M, Nakamura T, Imanishi T, Miura Y, Sakai Y	食道胃腸外科	Effect of Multidisciplinary Team Approach on Prevention of Postoperative Pulmonary Complications in Patients with Esophageal Cancer	J Gastroenterol Hepatol Res. 2015 9; 3(9): 1227-1232
53	Tomono A, Yamashita K, Kanemitsu K, Sumi Y, Yamamoto M, Kanaji S, Imanishi T, Nakamura T, Suzuki S, Tanaka K, Kakeji Y	食道胃腸外科	Prognostic significance of pathological response to preoperative chemoradiotherapy in patients with locally advanced rectal cancer	Int J Clin Oncol. 2015 Sep 4
54	Kanaji S, Ohyama M, Yasuda T, Sendo H, Suzuki S, Kawasaki K, Tanaka K, Fujino Y, Tominaga M, Kakeji Y	食道胃腸外科	Can the intraoperative leak test prevent postoperative leakage of esophagojejunal anastomosis after total gastrectomy	Surg Today. 2015 Sep 9
55	Urakawa N, Utsunomiya S, Nishio M, Shigeoka M, Takase N, Arai N, Kakeji Y, Koma YI, Yokozaki H	食道胃腸外科	GDF15 derived from both tumor-associated macrophages and esophageal squamous cell carcinomas contributes to tumor progression via Akt and Erk pathways	Lab Invest. 2015 May; 95(5): 491-503
56	Tanaka K, Sasayama T, Mizukawa K, Takata K, Sulaiman NS, Nishihara M, Kohta M, Sasaki R, Hirose T, Itoh T, Kohmura E	脳神経外科	Combined IDH1 mutation and MGMT methylation status on long-term survival of patients with cerebral low-grade glioma	Clin Neurol Neurosurg. 2015 Nov; 138: 37-44
57	Sasayama T, Tanaka K, Mizowaki T, Nagashima H, Nakamizo S, Tanaka H, Nishihara M, Mizukawa K, Hirose T, Itoh T, Kohmura E	脳神経外科	Tumor-Associated Macrophages Associate with Cerebrospinal Fluid Interleukin-10 and Survival in Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL)	Brain Pathol. 2015 Aug 28

58	Tanaka K, Sasayama T, Irino Y, Takata K, Nagashima H, Satoh N, Kyotani K, Mizowaki T, Imahori T, Ejima Y, Masui K, Gini B, Yang H, Hosoda K, Sasaki R, Mischel PS, Kohmura E	脳神経外科	Compensatory glutamine metabolism promotes glioblastoma resistance to mTOR inhibitor treatment	J Clin Invest. 2015 Apr 1; 125(4): 1591-602
59	Kimura H, Taniguchi M, Koyama J, Fujimoto Y, Hosoda K, Kohmura E	脳神経外科	Minimum Transpetrosal Retrolabyrinthine Approach for Revascularization of Posterior Cerebral Artery: Operative Nuance	Neurosurgery. 2015 Oct 16
60	Nishii T, Kono AK, Nishio M, Negi N, Fujita A, Kohmura E, Sugimura K	脳神経外科	Bone-Subtracted Spinal CT Angiography Using Nonrigid Registration for Better Visualization of Arterial Feeders in Spinal Arteriovenous Fistulas	AJNR Am J Neuroradiol. 2015 Dec; 36(12): 2400- 6
61	Tanaka K, Sasayama T, Irino Y, Takata K, Nagashima H, Satoh N, Kyotani K, Mizowaki T, Imahori T, Ejima Y, Masui K, Gini B, Yang H, Hosoda K, Sasaki R, Mischel PS, Kohmura E	脳神経外科	Compensatory glutamine metabolism promotes glioblastoma resistance to mTOR-targeted therapies	J Clin Invest. 2015 Apr; 125(4): 1591- 602
62	Kimura H, Okamura Y, Chiba Y, Shigeru M, Ishii T, Hori T, Shiomi R, Yamamoto Y, Fujimoto Y, Maeyama M, Kohmura E	脳神経外科	Cilostazol administration with combination enteral and parenteral nutrition therapy remarkably improves outcome after subarachnoid hemorrhage	Acta Neurochir Suppl. 2015 ; 120: 147-52
63	Taniguchi M, Akutsu N, Mizukawa K, Kohta M, Kimura H, Kohmura E	脳神経外科	Endoscopic endonasal translacerum approach to the inferior petrous apex	J Neurosurg. 2015 Aug; 7: 1-7
64	Mizowaki T, Sasayama T, Tanaka K, Mizukawa K, Takata K, Nakamizo S, Tanaka H, Nagashima H, Nishihara M, Hirose T, Itoh T, Kohmura E	脳神経外科	STAT3 activation is associated with cerebrospinal fluid interleukin-10 (IL-10) in primary central nervous system diffuse large B cell lymphoma	J Neurooncol. 2015 Sep; 124(2): 165- 74
65	Tanaka K, Sasayama T, Kohmura E	脳神経外科	Targeting glutaminase and mTOR	Oncotarget. 2015 Sep 29; 6(29): 26544-5

66	Imahori T, Hosoda K, Fujita A, Yamamoto Y, Mizowaki T, Miyake S, Kimura H, Kohta M, Kohmura E	脳神経外科	Long-Term Outcomes of Carotid Endarterectomy and Carotid Artery Stenting for Carotid Artery Stenosis: Real-World Status in Japan	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 Feb; 25(2): 360-7
67	Imai H, Misra GP, Wu L, Janagam DR, Gardner TW, Lowe TL	眼科	Subconjunctivally Implanted Hydrogels for Sustained Insulin Release to Reduce Retinal Cell Apoptosis in Diabetic Rats	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Dec 1; 56(13): 7839-46
68	Inoue Y, Kato K, Kanata S, Ishikawa K, Nakamura M	眼科	Reproducibility in the global indices for multifocal visual evoked potentials and Humphrey visual fields in controls and glaucomatous eyes within a 2-year period	Doc Ophthalmol. 2015 Oct; 131(2): 115-24
69	Nishida K, Morioka I, Nakamachi Y, Kobayashi Y, Imanishi T, Kawano S, Iwatani S, Koda T, Deguchi M, Tanimura K, Yamashita D, Nibu K, Funakoshi T, Ohashi M, Inoue N, Iijima K, Yamada H	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Neurological outcomes in symptomatic congenital cytomegalovirus-infected infants after introduction of newborn urine screening and antiviral treatment	Brain Dev. 2016 Feb; 38(2): 209-16
70	Yamashita D, Sun GW, Cui Y, Mita S, Otsuki N, Kanzaki S, Nibu K, Ogawa K, Matsunaga T	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Neuroprotective effects of cutamesine, a ligand of the sigma-1 receptor chaperone, against noise-induced hearing loss	J Neurosci Res. 2015 May; 93(5): 788-95
71	Furukawa J, Miyake H, Hinata N, Muramaki M, Tanaka K, Fujisawa M	泌尿器科	Renal Functional and Perioperative Outcomes of Selective Versus Complete Renal Arterial Clamping During Robot-Assisted Partial Nephrectomy: Early Single-Center Experience With 39 Cases	Surg Innov. 2015 Oct 12
72	Hinata N, Miyake H, Miyazaki A, Nishikawa M, Tei H, Fujisawa M	泌尿器科	Performance status as a significant prognostic predictor in patients with urothelial carcinoma of the bladder who underwent radical cystectomy	Int J Urol. 2015 Aug; 22(8): 742-6
73	Miyake H, Miyazaki A, Furukawa J, Hinata N, Fujisawa M	泌尿器科	Prospective assessment of time-dependent changes in quality of life of Japanese patients with prostate cancer following robot-assisted radical prostatectomy	J Robot Surg. 2016 Feb 17
74	Shinozaki N, Ebina Y, Deguchi M, Tanimura K, Morizane M, Yamada H	産科婦人科	Protein S deficiency complicated pregnancy in women with recurrent pregnancy loss	Gynecol Endocrinol. 2016 Mar 3:1-3
75	Ebina Y, Ieko M, Naito S, Kobashi G, Deguchi M, Minakami H, Atsumi T, Yamada H	産科婦人科	Low levels of plasma protein S, protein C and coagulation factor XII during early pregnancy and adverse pregnancy outcome	Thromb Haemost. 2015 Apr 16; 114(20150416): 65-69



76	Ebina Y, Yaegashi N, Katabuchi H, Nagase S, Udagawa Y, Hachisuga T, Saito T, Mikami M, Aoki Y, Yoshikawa H	産科婦人科	Japan Society of Gynecologic Oncology guidelines 2011 for the treatment of uterine cervical cancer	Int J Clin Oncol. 2015 Apr; 20(2): 240-8
77	Ebina Y, Minematsu T, Morioka I, Deguchi M, Tairaku S, Tanimura K, Sonoyama A, Nagamata S, Morizane M, Yamada H	産科婦人科	Rapid increase in the serum Cytomegalovirus IgG avidity index in women with a congenitally infected fetus	J Clin Virol. 2015 May; 66: 44-7
78	Tanimura K, Nishikawa A, Tairaku S, Shinozaki N, Deguchi M, Morizane M, Ebina Y, Morioka I, Yamada H	産科婦人科	The IgG avidity value for the prediction of Toxoplasma gondii infection in the amniotic fluid	J Infect Chemother. 2015 Sep; 21(9): 668-71
79	Tanimura K, Yamasaki Y, Ebina Y, Deguchi M, Ueno Y, Kitajima K, Yamada H	産科婦人科	Prediction of adherent placenta in pregnancy with placenta previa using ultrasonography and magnetic resonance imaging	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol
80	Ueno Y, Maeda T, Tanaka U, Tanimura K, Kitajima K, Suenaga Y, Takahashi S, Yamada H, Sugimura K	放射線部	Evaluation of interobserver variability and diagnostic performance of developed MRI-based radiological scoring system for invasive placenta previa	J Magn Reson Imaging. 2016 Feb 21
81	Kitajima K, Suenaga Y, Ueno Y, Maeda T, Ebina Y, Yamada H, Okunaga T, Kubo K, Sofue K, Kanda T, Tamaki Y, Sugimura K	放射線部	Preoperative risk stratification using metabolic parameters of 18F-FDG PET/CT in patients with endometrial cancer	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2015 Apr 2; 42: 1268-1275
82	Iijima K, Sako M, Nozu K	総合周産期母子医療センター	Rituximab Treatment for Nephrotic Syndrome in Children	Curr Pediatr Rep. 2015 ; 3(1): 71-77
83	Shirakawa T, Miyahara Y, Tanimura K, Morita H, Kawakami F, Itoh T, Yamada H	総合周産期母子医療センター	Expression of Epithelial-Mesenchymal Transition-related Factors in Adherent Placenta	Int J Gynecol Pathol. 2015 Nov; 34(6): 584-9
84	Toyonaga T, Tanaka S, Man-I M, East J, Ono W, Nishino E, Ishida T, Hoshi N, Morita Y, Azuma T	光学医療診療部	Clinical significance of the muscle-retracting sign during colorectal endoscopic submucosal dissection	Endosc Int Open. 2015 Jun; 3(3): E246-51

85	Tanaka S, Kawara F, Inoue H, Kurosawa M, Toyonaga T, Azuma T	光学医療診療部	Peroral endoscopic myotomy for achalasia after distal gastrectomy	Endoscopy. 2015 ; 47(Suppl 1 UCTN): E511-2
86	Ikeda A, Hoshi N, Yoshizaki T, Fujishima Y, Ishida T, Morita Y, Ejima Y, Toyonaga T, Kakechi Y, Yokosaki H, Azuma T	光学医療診療部	Endoscopic Submucosal Dissection (ESD) with Additional Therapy for Superficial Esophageal Cancer with Submucosal Invasion	Intern Med. 2015 ; 54(22): 2803-13
87	Nishida H, Ikegami A, Kaneko C, Kakuma H, Nishi H, Tanaka N, Aoyama M, Usami M, Okimura Y	栄養管理部	Dexamethasone and BCAA Failed to Modulate Muscle Mass and mTOR Signaling in GH-Deficient Rats	PLoS One. 2015 Jun 18; 10(6): e0128805-e0128805
88	Yamamoto K, Ioroi T, Kanaya K, Shinomiya K, Komoto S, Hirata S, Harada K, Watanabe A, Suno M, Nishioka T, Kume M, Makimoto H, Nakagawa T, Hirano T, Miyake H, Fujisawa M, Hirai M	薬剤部	STAT3 polymorphism rs4796793 may be a predictive factor of tumor response to multiple tyrosine kinase inhibitors in metastatic renal cell carcinoma in Japanese population	Med Oncol. 2016 Mar; 33(3): 24-24
89	Yamamoto K, Shinomiya K, Ioroi T, Hirata S, Harada K, Suno M, Nishioka T, Kume M, Makimoto H, Nakagawa T, Hirano T, Bito T, Nishigori C, Miyake H, Fujisawa M, Hirai M	薬剤部	Association of Single Nucleotide Polymorphisms in STAT3 with Hand-Foot Skin Reactions in Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma Treated with Multiple Tyrosine Kinase Inhibitors: A Retrospective Analysis in Japanese Patients	Target Oncol. 2016 Feb; 11(1): 93-9
90	Yamamoto K, Shichiri H, Uda A, Yamashita K, Nishioka T, Kume M, Makimoto H, Nakagawa T, Hirano T, Hirai M	薬剤部	Apoptotic Effects of the Extracts of Cordyceps militaris via Erk Phosphorylation in a Renal Cell Carcinoma Cell Line	Phytother Res. 2015 May; 29(5): 707-13
91	Washida K, Kowa H, Yamamoto Y, Kanda F, Toda T	神経内科	Dopamine transporter imaging as a diagnostic modality for atypical Alzheimer's disease mimicking corticobasal degeneration	Psychogeriatrics. 2016 Jan 18

92	Nakagawa T, Taniguchi-Ikeda M, Murakami Y, Nakamura S, Motooka D, Emoto T, Satake W, Nishiyama M, Toyoshima D, Morisada N, Takada S, Tairaku S, Okamoto N, Morioka I, Kurahashi H, Toda T, Kinoshita T, Iijima K	神経内科	A novel PIGN mutation and prenatal diagnosis of inherited glycosylphosphatidylinositol deficiency	Am J Med Genet A. 2016 Jan; 170(1): 183-8
93	Kanagawa M, Kobayashi K, Tajiri M, Many H, Kuga A, Yamaguchi Y, Akasaka-Manyu K, Furukawa J, Mizuno M, Kawakami H, Shinohara Y, Wada Y, Endo T, Toda T	神経内科	Identification of a Post-translational Modification with Ribitol-Phosphate and Its Defect in Muscular Dystrophy	Cell Rep. 2016 Mar 8; 14(9): 2209-23
94	Taniguchi-Ikeda M, Takeshima Y, Lee T, Nishiyama M, Awano H, Yagi M, Unzaki A, Nozu K, Nishio H, Matsuo M, Kurahashi H, Toda T, Morioka I, Iijima K	神経内科	Next-generation sequencing discloses a nonsense mutation in the dystrophin gene from long preserved dried umbilical cord and low-level somatic mosaicism in the proband mother	J Hum Genet. 2016 Jan 7

小計 3

計 94

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 ○審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 0 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 5 回
・ 研修の主な内容 ○臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning又は臨床研究推進セミナー（臨床研究を行っている研究者等が対象）を受講する 。	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院における後期研修プログラムは、初期研修修了者を対象とし、神戸大学及び研修協力病院において専門的な臨床経験を積み、多くの領域の専門医、あるいは内科や外科ではそのサブスペシャリティーの専門医を取得する。また、地域医療に貢献する実地臨床医にも幅広い臨床研修の場を提供することも可能である。

【診療科別専門医育成プログラム】

- ・専門医の取得を目的とする。
- ・多彩な症例を有し高度先進医療を行ない充実した指導医のいる大学病院と、豊富な症例を有し主体的な診療経験ができる一般病院の両者の利点を活かす。
- ・各領域間での交換プログラムを充実させ、多様な内容を可能とする。
- ・どの時期でも3～12ヶ月間大学内の他の領域にローテートが可能であり、他の診療科でより短期間の研修をしたり、他の診療科のカンファレンスや回診などに参加したりすることも出来る。
- ・医員の身分を持ったまま社会人枠を利用して大学院に入学し、専門医取得とともに学位を取得することも可能である。

【包括的臨床医育成プログラム】

- ・専攻しようとする診療科が未決定である場合、専攻診療科が決定するまでの間を支援する(期間は原則として1年となり、延長することも可能)。
- ・内科共通プログラム、外科共通プログラム及び内科・外科を組み合わせたプログラムにより構成されている。

2 研修の実績

研修医の人数	210人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
坂口 一彦	総合内科	准教授	27年	
平田 健一	循環器内科	教授	32年	
西 慎一	腎臓内科	教授	33年	
西村 善博	呼吸器内科	特命教授	33年	
森信 暁雄	膠原病リウマチ内科	准教授	28年	
東 健	消化器内科	教授	35年	
小川 渉	糖尿病・内分泌内科	教授	32年	
戸田 達史	神経内科	教授	31年	
南 博信	腫瘍・血液内科	教授	30年	
南 博信	血液内科	教授	30年	
岩田 健太郎	感染症内科	教授	19年	
杉本 幸司	放射線科	特命教授	28年	
佐々木 良平	放射線腫瘍科	特命教授	23年	
飯島 一誠	小児科	教授	34年	
錦織 千佳子	皮膚科	教授	36年	
曾良 一郎	精神科神経科	教授	34年	
木澤 義之	緩和支援治療科	特命教授	25年	

掛地 吉弘	食道胃腸外科	教授	29年
具 英成	肝胆膵外科	教授	39年
田中 優子	乳腺内分泌外科	特命准教授	18年
大北 裕	心臓血管外科	教授	38年
眞庭 謙昌	呼吸器外科	教授	26年
尾藤 祐子	小児外科	特命准教授	21年
黒田 良祐	整形外科	教授	26年
甲村 英二	脳神経外科	教授	37年
中村 誠	眼科	教授	27年
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	30年
藤澤 正人	泌尿器科	教授	32年
山田 秀人	産科婦人科	教授	32年
寺師 浩人	形成外科	教授	30年
一瀬 晃洋	美容外科	特命准教授	23年
溝渕 知司	麻酔科	教授	31年
西山 隆	救命救急科	特命教授	28年
伊藤 智雄	病理診断科	教授	24年
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	20年
古森 孝英	歯科口腔外科	教授	37年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

○臨床検査技術研修

・主な内容：測定不確かさ推定セミナー、好中球細胞外トラップと疾患との関連 Update・化学物質取扱講習会-毒物劇物取扱を中心に、血液製剤と適正使用・LISの操作取扱について、甲状腺ホルモンと疾患、学会参加報告会、パニック値対応と日夜勤業務について、臨床検査を取り巻く国際規格動向に関する講演会、日夜勤業務について 微生物検査

・研修の期間・実施回数： 1時間程度 8-10回/年（院内にオープン）

○神戸臨床検査フォーラム

・主な内容：心電図検査に新たな可能性を ～新技術：導出18誘導心電図のご紹介～、当院微生物検査における質量分析の運用と抗菌薬治療への貢献について、多項目迅速ウイルスPCR法を用いたウイルス感染症の早期診断（先進医療承認）、NOAC (DOAC) 服用患者における凝固検査の留意点、私の考える神戸大学検査部・臨床検査と私、私と臨床検査

・研修の期間・実施回数： 3時間程度 1回/年（院外にもオープン）

○神戸栄養研究会

・主な内容：医師、コメディカルを対象に栄養・輸液および緩和ケア、リハビリ栄養関連の研究會を実施し、理解を深める。

・期間・実施回数：2時間 1回/年 参加者：100名（院外もオープン）

○NEST 勉強会

・主な内容：医師、コメディカルが各々の専門の立場から NEST、栄養に関するテーマで勉強会を行い、チーム医療の推進を図る。NST 専門療法士受験のために必要な実習時間として申請できる。

・期間・実施回数：1時間 6回/年 参加者：80名

○放射線療法に関する研修会

- ・研修の主な内容：放射線療法に関する他職種連携の研修会（K-Grapeの会）

第一弾 高精度放射線治療って何だろう？

第二弾 他施設の高精度放射線治療ってどんなん！

第三弾 皆で一緒に考えよう！！多職種で取り組むIMRTを行った患者の事例検討

- ・研修の期間・実施回数：1時間30分 3回/年

- ・研修の参加人数：214名（院外にもオープン）

○いむーの(免疫組織データベース)技術セミナー

- ・主な内容：免疫組織化学技術の基礎と応用を講義して、免疫染色標本の染色性の評価について鏡検実習を行う

- ・研修の期間・実施回数：終日（6時間）1回/年 研修の参加者：100名（院外もオープン）

○ME機器に関する研修

- ・主な内容：輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・血液浄化装置等のME機器使用方法に関する研修

- ・研修の期間・実施回：2015年4月1日～3月31日 1時間程度 89回

- ・研修の参加人数：756名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

○医療技術部初任者研修

- ・主な内容：新たに職場に採用された医療技術職員にたいして、病院で働くための基本的な理論や技術を身につける。

- ・研修の期間・実施回数：1時間 7回

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容

- ・研修の期間・実施回数

- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 藤澤 正人
管理担当者氏名	薬剤部長 平井 みどり 総務課長 足立 裕 管理課長 佐藤 浩和 学務課長 永野 康彦 研究支援課長 足立 久司 医事課長 石坂 雅志

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌各科診療日誌は当該担当部署において、保管している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録センター	
		看護記録	診療録センター	
		検査所見記録	診療録センター	
		エックス線写真	各診療科	
		紹介状	診療録センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
		高度の医療の研修の実績	学務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医事課・薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課・薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課・薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	計画書(様式第8)提出済
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医事課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	計画書（様式第8） 提出済
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	計画書（様式第8） 提出済
		監査委員会の設置状況	計画書（様式第8） 提出済
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	計画書（様式第8） 提出済
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室
		職員研修の実施状況	医事課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	計画書（様式第8） 提出済		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
閲覧責任者氏名	病院長 藤澤 正人
閲覧担当者氏名	薬剤部長 平井 みどり 総務課長 足立 裕 管理課長 佐藤 浩和 学務課長 永野 康彦 研究支援課長 足立 久司 医事課長 石坂 雅志
閲覧の求めに応じる場所	応接室
閲覧の手続の概要 総務課に申出を行い、応接室にて閲覧する。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 医療安全の考え方</li><li>② 医療事故発生時の対応</li><li>③ 医療事故等発生時の関連機関連絡先</li><li>④ インシデント報告システム</li><li>⑤ 医療安全に関する内規集</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 病院における医療安全管理対策の策定及び変更</li><li>② 療安全管理のための研修及び教育計画の策定</li><li>③ 重要なインシデントに関する分析・改善策の検討・対応の決定について</li><li>④ その他、医療安全に関する全般事項</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年14回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 医療安全管理に関する職員必修講習会(感染対策、医療機器関係含む年2回)</li><li>② 研修医、看護師、技官、外部委託職員に対する採用時研修</li><li>③ 医学部学生に対する医療安全管理に関する卒前教育(1年生対象、4年生対象)</li><li>④ 看護部対象講習(新規採用者対象、身体拘束について)</li><li>⑤ 医療安全に関連する講習会9回</li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 医療スタッフポケットマニュアルの配付</li><li>② 薬剤情報検索システム</li><li>③ 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム</li><li>④ 是正処置実施計画書・報告書の作成</li><li>⑤ 院内巡回の定期実施</li><li>⑥ 医療の質・安全マネージャー連絡会議の定期実施</li><li>⑦ 死亡事例の全件報告</li></ul>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的考え方、院内感染対策のための委員会・組織、院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針、院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針、患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針、その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド、抗菌薬適正指導の推進、特定抗菌薬届出の監視、コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集・院内環境の整備）、感染制御の地域連携</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策委員会…年12回(月1回実施) 感染制御部会…年12回(月1回実施)
<p>・ 活動の主な内容： MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会および感染制御部連絡会議開催、職業感染予防対策（結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修（必修講習会、ICP講習会など）の計画・実施。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 21 回
<p>・ 研修の主な内容： ・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義およびデモンストレーション。 ・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演。 ・ 全職員のうち希望者に対して、院内感染対策におけるベーシックな知識を得てもらうように、院内認定ICP育成講習会ベーシックを年4回開催。 ・ 職種別（医師、看護師、診療技術部門、委託業者等）対象に、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について講義やトレーニング。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) 感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制のマニュアル化。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染対策実施状況を確認するために、定期（週1回）およびオンタイムに院内ラウンドを実施し、必要時指導。 ・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法を検討し、随時介入指導。 ・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。 ・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。 ・ 職員、学生のワクチン接種プログラム(B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス)を計画・実施。 ・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底。 ・ 改築、改修時の院内のファシリティー・マネジメントの実施。 ・ 医学科学生(BSL前)及び保健学科学生の実習前に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の使用方法について演習を実施。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 17 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 平成27年度は全職員を対象とした講習会を3回開催した。開催月とテーマは、「6月：薬剤師によるポリファーマシーに対する介入」、「6月：ハイリスク薬剤について」、「7月：手術前に注意・中止が必要な薬剤について」、とした。この内、「6月：薬剤師によるポリファーマシーに対する介入」については講習会終了後に確認試験を実施し習熟度の確認を行った。</p> <p>(2) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例を共有する「安全管理のための連絡会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(3) 新人看護師を対象とした「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を開催している。</p> <p>(4) 新入局職員を対象としたオリエンテーションで医薬品に係る講習を担当している。講習内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法等である。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じ改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会と医療安全管理委員会での承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 2016年9月より、薬剤部の中央部門（調剤室、薬品管理室）が把握した未承認医薬品若しくは適応外又は禁忌等の処方内容は、薬剤部門システムの患者属性にコメント入力し定期的にその一覧を出力して医薬品安全管理者が確認している。また、病棟業務において病棟薬剤師が把握した内容については薬品情報室が「各病棟 疑義・相談ファイル」を加工し薬剤部門システムの患者属性データに追加している。この情報について、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は処方の必要性等の検討を行い、適宜、各部門・部署などに指導を行っている。また、その結果等は院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知に努めている。</p> <p>(2) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビやホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。さらに薬剤部職員には個別に周知し、その記録を保管している。</p> <p>(3) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、随時、医療の質・安全管理部、感染制御部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p> <p>(4) 全ての電子カルテ端末はPMDAのホームページが閲覧可能であるため、全職員は速やかに医薬品に関する副作用情報を確認することができる状況となっている。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、人工心肺装置、閉鎖式保育器、診療用放射線照射装置についての操作方法及び管理上の注意点とトラブルシューティングについて</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る計画の策定 (有 無)</li><li>保守点検の主な内容： 院内の臨床工学技士による定期点検（定期消耗品交換含む）と、製造販売メーカー実施における点検報告書の管理</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関する安全情報の提供と不具合報告の連絡体制の強化 医療情報端末（電子カルテ）を用いての安全情報の共有</li></ul>	



(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>病院長補佐（医療安全担当：医療の質・安全管理部長）を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 1名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、月 1 回発行する広報誌「くすのきスクエア」により周知徹底を図っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品の安全使用のための業務手順書を改訂した。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 有・無</p> <p>・規程の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①誰が説明し、誰が立ち会うか。</li><li>②どこで行うか。</li><li>③記録と保管</li><li>④説明と患者側の同意の記録</li><li>⑤説明の内容</li></ul>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①診療録等の記載内容の確認</li><li>②記載方法や内容の研修・指導</li></ul>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況 計画書（様式第8）提出済	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
<p>・所属職員：専従（1）名、専任（2）名、兼任（1）名  うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（ ）名  うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名  うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>* 医療安全に10割携わる看護師1名と5割以上携わる医師を2名配置している。</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①医療安全管理委員会の資料、記録及び保存、その他委員会の庶務に関すること。</li> <li>②事故等に関する診療録や看護記録等の記載内容の確認や必要な指導を行うこと。</li> <li>③患者や家族への説明等、事故発生時の対応状況の確認や必要な指導を行うこと。</li> <li>④事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認や必要な指導を行うこと。</li> <li>⑤医療安全管理対策に関する教育、研修に関すること。</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 計画書（様式第8）提出済	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 計画書（様式第8）提出済	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	

⑨ 監査委員会の設置状況 計画書（様式第8）提出済	有・無
---------------------------	-----

・ 監査委員会の開催状況：年 回

・ 活動の主な内容：

  

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・ 委員名簿の公表の有無（有・無）

・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 265 件</li> <li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 54 件</li> <li>・医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>①病院における医療安全管理対策の策定及び変更</li> <li>②医療安全管理のための研修及び教育計画の策定</li> <li>③その他医療安全管理に関すること</li> </ul> </li> </ul>
<p>⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 計画書(様式第8)提出済</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の特定機能病院への立入り（ 有（病院名： ）・無）</li> <li>・他の特定機能病院からの立入り受入れ（ 有（病院名： ）・無）</li> <li>・技術的助言の実施状況</li> </ul>
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体制の確保状況 医療相談窓口を設置し対応している。</li> </ul>
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）</li> <li>・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）</li> <li>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）</li> </ul>
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施状況 職員必修講習において、診療ルール、インシデント・アクシデント報告のルール、具体的事例の改善策等は実施しており、講習終了後には、ミニテストで学習効果測定を行っている。</li> </ul>

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況計画書（様式第8）提出済

・研修の実施状況

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：平成27年12月（認定期間 平成27年3月28日～平成32年3月27日）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：病院ホームページに掲載 内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・呼吸器センター（呼吸器内科、呼吸器外科等）、腫瘍センター（腫瘍・血液内科、緩和支援治療科等）、ICUにて複数の診療科が連携し対応。	

(様式第 8)

平成 28 年 9 月 9 日

厚生労働大臣 殿

管理者名 神戸大学医学部附属病院  
病院長 藤澤 正 人 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

安全管理要項に、病院長が、副病院長又は病院長補佐の中から医療安全管理責任者を指名する旨の条文を追加し、平成 28 年 10 月 1 日から施行する旨の規定改正を行った。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品安全管理責任者の責務について、安全管理要項に定め、平成 28 年 10 月 1 日から施行する旨の規定改正を行った。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

インフォームドコンセントに関する責任者の配置について、安全管理要項に定め平成 28 年 10 月 1 日から施行する旨の規定改正を行った。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

【改正省令施行時点で、措置済み】  
説明と同意のガイドラインとして規定している

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

診療録管理責任者の配置について、安全管理要項に定め平成 28 年 10 月 1 日から施行する旨の規定改正を行った。

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

【改正省令施行時点で、措置済み】

平成 27 年 4 月から、院内死亡事例について、医事課では電子カルテシステムによる確認及び医療の質・安全管理部セーフティマネジャーによる看護日誌からの確認を毎日（土日・休日には翌日）行い、死亡事例のダブルチェックによる全例把握を行っている。また、各診療科には、当該事象から 4 8 時間以内の報告を義務付けている。

死亡事例以外でも、治療において通常の過程では必要がない処置又は治療（軽微なものも含む）等が生じた場合には、セーフティマネジャーに連絡のうえ、医療の質・安全管理システム（Safe Master）にて報告することとしている。さらに、当該内容をセーフティマネジャーが検証のうえ、医療の質・安全管理部会議で報告し、内容によっては審議会を開催している。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

【改正省令施行時点で、措置済み】

大学の公益通報窓口で対応する。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

医療の質・安全管理システム（Safe Master）を經由してアクシデント・インシデントの報告を受け、その全件を GRM が確認している。また、重要な通知等は、その都度周知等を行っているが、平成 28 年 7 月から「くすのきスクエア」（医療安全、薬剤、感染、医療機器の重要な通知（事項）を記載）を発行し、確実に伝わっているか各個人が押印又はサインを行う事で確認をしている。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置



高難度新規医療技術の実施に係る確認部門（審査委員会）等の設置、及び関係規程等の作成について、平成 29 年 4 月までに整備するよう、医事課において検討を進めている。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

確認部門（審査委員会）等の設置及び関係規程等の作成について、平成 29 年 4 月までに整備するよう、医事課において検討を進めている。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

未承認新規薬品等により医療を行う場合に、実施適否を確認する部門（審査委員会）等の設置及び規程等の作成について、平成 29 年 4 月までに整備するよう検討を進めている。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

未承認新規薬品等により医療を行う場合に、実施適否を確認する部門（審査委員会）等の設置及び規程等の作成について、平成 29 年 4 月までに整備するよう検討を進めている。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

開設者に求めることとされていることから、委員候補者の選定及び規則等について、大学本部と協議を行っており、平成 29 年 4 月までに設置するよう検討を進めている。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

国立大学病院間における医療安全に関する相互チェックシステムをベースにして、実施内容等を検討し、平成29年4月までに体制を整える。

15. 職員研修を実施するための予定措置

【改正省令施行時点で、実施済み】

職員必修講習において、診療ルール、インシデント・アクシデント報告のルール、具体的事例の改善策等は実施しており、講習終了後には、ミニテストで学習効果測定を行っている。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）に来年度から参加予定である。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（1）名、専任（2）名、兼任（1）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（ ）名
- うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医師について、現在就業時間に占める医療安全管理業務に5割以上従事している者を2名配置しているが、平成32年4月までに8割以上従事できる者を配置するように調整していく。また、薬剤師については、現在兼任1名の配置であるが、平成30年4月までに5割以上従事する者を2名配置し、平成32年4月までに8割以上従事する者を1名配置するように調整していく。